日本農業気象学会 2012 年度第 2 回理事会議事録

日 時：6 月 1 日 （金）13:00～17:00
会 場：東京大学農学部 7 号館 A 棟 7 階会議室（東京都文京区弥生 1-1-1）

出席者：岡田益己、大政謙次、小林和彦、菅野洋光、荊木康臣、横山 仁、町村 尚、
皆巳幸也、富士原和宏、石郷岡康史、北野雅治、松島 大、菅谷 博、佐々木華織、
廣田知良(skype)
欠席者：青木正敏、小沢 聖、黒瀬義孝、杜 明遠、林真紀夫、松岡延浩、吉本真由美、
脇山 恭行、中屋 耕

【議事録・議事要旨確認】

1. 2012 年度第 1 回理事会議事録報告（資料 1）
メール会議にて確認済み、承認され、Web へ掲載する。
2. 2011 年度評議員会、 2012 年度総会の議事要旨確認（資料 2）
メールにて確認、修正済み。承認された。
ただし、総会資料の P.14 の［研究部会活動予定］の中で［生態系プロセス研究部会］は解散をしているため、削除した後 Web に掲載することが確認された。

【報告・連絡事項】

1. 編集委員会報告（資料 3）
北野編集委員長より、編集委員会開催の報告（14 名参加）と論文審査状況と審査中のストックが 10 報と少ないとの報告があった。
ISAM2012 での申込をしていて投稿のない人には、再度提出を依頼するとの報告があった。
・ISAM2013 については、2012 と同様に進める予定だが、論文が集まらなかったことを反省点として対策を考えた方がよいとの意見があった。
・「英文誌の日本語抄録を掲載してはどうか」と評議員から意見があり、掲載方法を調べたとの報告があった。審議いただきたいとの申し出があった。
★北野編集委員長より、ISAM 投稿予定者が、イランの制裁措置で送金できないので掲載料を免除してほしいとの事だったが、制裁が解除されるまで請求を延期する事を編集委員会で決定したとの報告があった。松島理事より補足で、その後、投稿があったが書式不備で返したら再投稿が行われていないとの報告があった（催促をした）。
★石郷岡理事より「生物と気象」を学会のサーバー変更に伴い引っ越した際に、リンク切れ等を回避するための作業を外注したとの報告があった。
★松島理事より ISI 登録申請準備について（資料３ P.7-8）の報告があった。
・Journal scope、Unique features distinguishing this journal についての改変等、提案された。申請までには時間があるので、気づいた点があれば松島理事へメール等で知らせるよう依頼があった。
★北野編集委員長より Editorial Board および Advisory Board について、ISI 登録を前に国際化を図るにあたり、次期編集委員長を含めて相談して決めたいとの報告があった。
・ISAM2012 の投稿について松島理事より報告があり、投稿が３報（日本）、イランからの投稿予定が１報、KSAFM からの投稿０となった。
・「ISAM の投稿数が申込数に対して 20 数報と少なかった理由は押さえているのか？」との質問が出された。締め切りは、例年通り 5 月 11 日であった。松島理事より、ISAM への手続きは変わっていないが、締め切りのメールを出したのが締め切りの前日となってしまったとの報告があった。

・小林副会長より、ISAM の特集号の締め切りに間に合わなかった場合、会員以外の投稿者でもレギュラー誌には投稿できるようにすれば、救済できるのではないかとの意見が出された。
・松島理事より、国内の著者には、レギュラー誌で投稿を勧めているとの報告があった。
・岡田会長より、一年間の投稿の権利をもっていて、期限内に投稿すれば優先的に掲載するというような形にしても良いのではないかとの意見があった。

2.九州支部選出理事

菅野理事より、小沢理事が九州支部から関東支部に異動したため、脇山氏が選出されたとの報告があった。

3. 日本農業工学会の新理事について

菅野理事より、真木日本農業工学会理事が名誉顧問に推薦されたため、新しい理事を選出してほしいとの申し出があり、農村工学研究所の奥島氏に理事の交代を依頼して承諾された旨、報告があった。

4. 農業環境工学フェデレーション会議の報告（資料 4）

小林副会長より、5 月 2 日に開催され、大政副会長、小林副会長が出席したとの報告があった。2012 年合同大会の案内（資料 5）。

★岡田会長より盛岡で開催するにあたり、メールでのやり取りの中で、幹事学会がやる方法と地域中心で行う方法と両方あってもよいではないかとの意見があったとの報告があった。以前、盛岡で開催したときは、農業気象学会と生環と合同で行った経緯がある。

★岡田会長より、盛岡で開催する意味についての説明があった。

・フェデレーション自体は、3 年に 1 度が基本的に開催されていたが、復興支援の意味合いを考えて今回は 2 年も考えた。また、スタッフがそろっており、盛岡駅前に県の施設「アイーナ」で 10 会場とれる。

★小林副会長より、会員が中心ではなく、学会が中心となって運営していることをはっきりとする必要がある。責任の所在として、学会が行っている事を明確にする必要はあるとの意見があった。

★農業気象学会としては、幹事学会として盛岡開催し 2014 年でも 2015 年でもよいとするという事で合意した。なお、農業機械学会が 6 月 9 日に理事会があるので、その時に希望開催年度が提示される。

★岡田会長より、今年の大会案内が実行委員会から正式に連絡が来ないとの意見が出され、横山庶務理事より 2012 年度実行委員会は 6/8(金)に行うとの連絡があり、本條先生が出席するとの報告があった。

6. 2013 年度北陸大会の進捗状況について（資料 6）

皆巳理事より、先週実行委員会が開催され、その結果を踏まえての報告があった。

石川県立大学には、生協がないため懇親会費を 500 円～1000 円値上げする予定。「金沢エクセルホテル東急」にて 1 人あたり 5,000 円、料理は洋食立食のみ、看板と送迎バスはまだ計算に含めていない。

★理事会向けの参考資料より

・実行委員会名簿で学会員は、10 名中 5 名で、頼み込んでお願いをした。

・交通が不便なため、シャトルバス（朝夕のみ）を運行する予定。バス会社に見積を出してもらい決めていく予定（現予算案では、120,000 円とした）。

★予算案

・自治体からの補助金は、石川県 150,000 円、金沢市 90,000 円が決定している。
・野々市市からの補助金制度はないが、後援をいただく予定。
・会場費 250,000 円は、部屋代ではなくポスターセッションのパネル代として見積った。
・予備費 250,000 円は、学会からの運営費を計上している。
★ISAM 関係の投稿締め切りについては、編集委員会より指示を受けることとする。

岡田会長より、前大会で「ポスター賞があることを事前に知らせてほしい」との意見が出ていたので、プログラムができた時点でお知らせできたら良いのではとの案が出された。

7. 2014 年度大会の開催地（札幌）について

岡田会長より、平野支部長とのメールで「その方向で考えています」との返事をいただいたとの報告があった。

8. 学会公式ポスター制作（資料７）

横山理事より、青木理事の代理で資料の読み上げにて報告が行われた。
岡田会長より、図案もすべて先方に依頼するとういことなのか？ との問いに対して、皆巳理事より、2010 年 12 月に HP で募集した時の文言のリストがあったのでそれがベースになるかと思う、との回答があった。岡田会長より、メールで皆さんに流して意見交換し、中身の議論をして、できるだけキーワードを少なくスマートにすること、イメージを伝えて写真やデザインは先方に任せて良いと思うことが意見として出された。横山理事より青木理事へ伝え、案を出してもらうことになった。

9. 堀口郁夫元学会長ご逝去について（資料 8）

お悔やみ電報を送った旨、横山理事より報告があった。また、「生物と気象」に弔意文掲載のための原稿を依頼中で、窓口は井上氏である。

10. その他

★協賛について（資料９）
横山理事より、４件協賛したとの報告があった。施設園芸・植物工場展 2012（GPEC）の案内パンフレット 100 部の提示・配布があった。
★2012 年度大阪大会実施報告（別途資料）
町村理事より報告された。参加者 240 名は ISAM 参加者を含む。予算通りで開催でき、運営費も全額返却できた。本来報告事項に含めるべき項目であったが、菅野総務理事が失念していたため「その他」での報告となった。
★地球惑星科学連合について
石郷岡理事より、連合の中で「大気海洋・環境科学セクション」の名称では陸水関係の分野の名称が見えないので、入れる方向で 1～2 年かけて検討をしていること、現在、第一候補として「大気水圏科学セクション」が上がっていること、４月下旬頃に連合から日本農業気象学会へ意見の照会があり、理事へはメールにて報告済みであるとの説明があった。
★温暖化フォーラム
・廣田理事より、宇都宮の合同大会ではオーガナイズドセッションで行う予定だが、これから募集をかけるとの報告があった。
・岡田会長より、「農業気象の中で、いろいろな分野に声をかけてみてはどうか」また、「作物への影響、農業気象への影響を今までは議論してきたが、他にも施設園芸のエネルギーの問題や気候的な話など、いろんな立場で温暖化の話題はディスカッションできると思うので広く人選をしてみてはどうか」との意見が出された。

・小林副会長より、「実行委員会または、フェデレーション委員を通じて公募してもらう方法もあるのでは？」との提案があった。

★機関別認証評価に係る専門委員（平成 24 年度実施分）の選考結果について

吉本理事に代わり、平成 22 年 10 月 7 日付の学会宛の依頼（平成 23，24 年度実施分の機関別認証評価委員会専門委員候補者の推薦）に対応し、３名を推薦したことに対し、（独）大学評価・学位授与機構より「24 年度実施分について選任を見送る」旨通知されたことが菅野理事より報告された。

【審議事項】

1. Journal of Agricultural Meteorology 誌の日本語抄録掲載および論文投稿数減の問題(資料 3)

★日本語抄録の掲載について（資料 3－2.）北野編集委員長より、掲載する方法の選択肢が報告された。方法として、英語の目次と日本語訳を「生物と気象」にのせる事を編集委員会で検討してもらう。

皆巳理事より、日本気象学会の場合は、別冊子である日本語誌（「天気」）のみの購読もできるため、そちらにも要旨を（日本語で）掲載しているということで本学会とは状況が異なるとの補足説明があった。

★論文投稿数の問題について（資料 3－3）

北野編集委員長より、ISI 登録のための論文のストックが現在非常に少なく、編集委員会内で 9 月もしくは 12 月までに 1 人 1 報は投稿するように呼びかけを行ったこと、また、理事会の皆さんにも 1 人 1 報の投稿をお願いしたいとの依頼があった。

★編集委員会より、投稿数を増やす方法について、提案があった。（資料 3－3）

ISAM 投稿期限を延長して H25.3.31 までとする。

68 巻 3 号掲載分から掲載料を無料とする内容をメール広報とホームページで広報する。基本的に合意した事にして、メールで原案を審議して決定する。

投稿規定の「6. 出版料金と原稿の長さ」（Publication Charges and Length of Manuscripts）では会員資格を問わないとし、投稿料は、会員が含まれる場合は無料とし、非会員のみの場合は有料とする。オーバーチャージは請求することにする。

会則の会員の権利に「会誌に投稿できる」との部分は残しておく。会則変更は総会にかける必要があるが、非会員の投稿を認めることで今後調整を行う。

★岡田会長より、数式の表現方法がまちまちとなっていること、そもそも投稿作成要領に数式に関しての規定がないので、ISI 登録にむけてフォーマットを統一する必要があるとの意見が出され、今後検討することになった。

2. **大阪大会 ISAM に関する指摘事項について（資料 10）**

★岡田会長と菅野理事宛に原薗会員からメール（意見）があり、会長、副会長、総務理事も含め検討した。原薗会員からの文章を菅野理事が内容を整理し資料として提示した。

★理事会として、会長、副会長を中心にまとめた回答を議論して頂きたいと、菅野理事から申し出があった。また、ISAM の運営の資料を原薗氏が詳細を取りまとめたノウハウ集が作成されており、次回に資料として提示する旨報告された（今回菅野理事が添付を忘れたため）。

★皆巳理事より、補足説明として、資料 10－1).2).は、ISAM の位置付け、意義が浸透していないようなので、メーリングリストやホームページなどで周知する機会を持ってほしいとの申し出があった。また、WMO シンポジウムについては広く誤解があったと思われる。

★町村理事より、ISAM は参加者も少ないし、若手が魅力を感じていないのではないかとの意見があったとの報告があった。投稿数が少ないのと関連するように思われるとのこと。

★岡田会長より、ISAM を続けることによって英文の論文が増えてきた。WMO シンポジウムは予想以上に大きな負担になってしまったと思う。意思の疎通が不十分だったと思うとの反省が

なされた。石川大会から通常大会の形態に戻し、韓国とはパイプができたので、声かけを行う。

3. 2013 年北陸大会の ISAM の支援体制について（皆巳）

1)ISAM 運営の共通理解の整理

大政副会長より ISAM の目的について説明が行われた。英文誌を出すためが 1 つの目的である。また、国内でも英語発表を行い、国際シンポジウムとすることで、若い人の業績評価につなげることが出来る。そこで、常時開催していつでも発表が行えるようにしたところである。

一方、通常大会のマンネリ化ではなく、学会としてサービスするという理事会としての合意、および.国際化のために海外からの外国人を受け入れるために、入金・ビザ・マネジメントを含めて体制について議論を整理する必要があるのではないかとの提案があった。

大政副会長より、韓国と昨年提携したので、交流は今後も続けていくようにして、担当者に負荷が掛からないように整理できれば従来型の国内大会として開催して問題はないと思うとの意見が出された。このほか、ISAM 開催の意義について、多くの議論がなされた。

2)ビザの発給業務

小林副会長より、ISAM 参加者へビザの申請には身元引き受けの書類作成だけなので、現場ではなくとも窓口があれば問題はないと思われるとの意見があった。ホテルのサービスまでする必要性はないと思われる。

・今回は、海外からの申し込み窓口（全体のやり取り）として、荊木理事にお願いをすることになった。現場での受付は、皆巳理事が担当する。
・韓国と中国への声かけは、小林副会長が行う。

3)プログラム委員会の発足

ISAM の英語のセッションのプログラム編成について

岡田会長より、プログラム委員会は一つとし、英語セッションの編成の係を北陸支部以外から 2 名ほど応援を出すこと、理事会として、企画・講演委員長の小沢理事と小沢理事から 1 名指名をしてもらうとの意見があった。

★岡田会長より、北陸支部長から、前期大会と次期大会の実行委員を含めてほしいとの連絡があり、理事会で決めるのではなく、実行委員会判断で行う旨、回答することとなった。
★ISAM の意義を周知する目的を ISAM の HP に掲載するにあたり、福島大会の時に文面を作成しているので、その内容を菅野理事がメーリングリストにて流し議論することとなった。
★町村理事より、理事会と次期大会の実行委員会の間で ISAM の共通認識があればよいのではないかとの確認があった。
★小林副会長より、反省として、韓国、中国にも大会開催の声かけを早めに行うようにしたいとの意見が出され、英語版の大会ホームページを早めにアップすることになった。

4. クレジットカード決済について（資料 11）

養賢堂より、クレジットカードの取り扱いは可能であるとの報告があった。

・海外からの大会の参加者だけとし、その後、海外からの会費も含めて行う。
クレジットカード Web で受け付けるのではなく、PDF などに記入してもらうようにする。
・会費送金が銀行 ATM からの振り込みについての案内を、HP とメーリングリストにて会計理事が行う。新しく振替用紙を作る時は、振替以外の支払い方法がある事を明記する。
・大会参加費の振り込みについては、今まで通り、振替用紙を利用とする。

5. 2013-2014 年度役員選挙について（資料 12）

菅野理事より吉本理事に代わり、役員選挙に関する日程の報告があった。

選挙管理委員長の互選が済んでいる。承認されればこの日程案で行う。

選挙管理委員の資料は、近々、大野前庶務理事より、吉本理事が引き継ぐ予定。

岡田会長より、12 月の理事会までに会長、副会長、学会賞審査員は最低限決まっていないと大変になると思われるので、遅くとも 10 月までに支部選出役員は決めておく必要があるとの意見が出された。吉本理事より、会長名で「日程どおり支部役員を選出するように」依頼する文章を流す事になった。

6. 学会賞の賞状の手書き化、 論文賞の賞牌の変更について（別紙資料）

論文賞の賞牌が他の賞と比較して高いのではないかとの意見が出されていたため議題となった。会長より問題点として、功績賞・奨励賞・永年功労賞は受賞者数が少ないので問題はないが、論文賞は副賞が高いため多く出すことができない。また、論文賞の格付けをはっきりさせるなどが必要になるのではないかとの問題提起があった。

★論文賞の賞状を英文にし、文案は菅谷理事が作成して、メール会議にて決定する。副賞については、現金では問題が生じる場合があるので、会長と表彰担当理事で意見交換し次回の理事会にて報告する。

★学術賞、普及賞の賞状については、養賢堂より業者に依頼して手書きとする。文面は、表彰担当理事が作成する。印鑑を預け押印までしてもらう。

★岡田会長より寄付された賞牌について、賞牌管理を養賢堂に依頼し、古い賞牌（三個）が欲しいという方がいた場合は、盾取扱店にてプレートを作ってもらい使用することが提案された。

7. 支部の合併について

菅野総務理事より東海支部合併について報告があった。また、各支部の会員数が報告された。東海支部の問題点としては、東海大・開発工学部が閉鎖になり、野菜茶業研究所の武豊が筑波に移転すること等により、会員数の激減が予想される。まずは、東海支部に意向を確認し、大会の時に意見交換会を行う方法が提案された。宇都宮大会で打診してはどうかとの意見も出された。

8. その他

★学会窓口の一本化について（資料 13）

窓口の一本化　問い合わせ先は、一般的なことは養賢堂にして各担当理事へ連絡し、会誌に関することは編集理事（中屋編集委員）とする。

なお、リンクに対する問合せ等は、庶務理事から HP 担当理事へ依頼する。

★鈴木義則会員の名誉会員への推薦について（資料 14）

名誉会員の手続きは理事会で推薦され、総会で承認される。

これまで資格や規定などの議論をしたことがないが、顧問は数代前の会長に依頼している。

名誉会員の資格としては、会長もしくは顧問を担当し、年齢が 70 歳を越えていることを基本ラインとして決めてはどうかとの意見が出された。まだ名誉会員になっていない候補者を菅野理事が洗い出すことになった。

★北野編集委員長より、次期編集委員長候補者についての提案がなされた。

次回理事会は、合同大会期間中の 9 月 12 日（水）（夜）を予定